

## 『すべてに感謝！ 一生感謝！』 コリント人への手紙4章6～15節 2016.1.1(元旦礼拝説教より)

『すべてのことはあなたがたのためであり、それは、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現れるようになるためです。』Ⅱコリント 4:15

◆『すべてのこと』とは、最善も最悪も、順調や逆境、健やかな時も病む時も！…どんな時でも、主は教会を愛し、共におられ、必要な恵みを与え、感謝で満ちし、神の栄光を現されるという！聖書の「感謝」とは、原語(ヘブル語で“トダ-:告白する”、ギリシャ語で“ユウカスティア:熟考する、贈物”)的には、神からの一つ一つの恵みを数えて熟考して賛美を神に捧げることを意味している。

◆パウロがこの素晴らしい神の祝福を確信できたのは、自分の弱さを実感したからではないか。『土の器(4:7)』である私たちは傷つきやすく、世の悪(罪)の前に脆く、弱く、無力である。『苦しめられ、途方にくれ、迫害され、倒された(4:8～11)』とあるが、具体的にはⅡコリント 11:23～28にある通り、試練と悲惨の連続だった。神なんかいない！愛でもなんでもない！こんな目に遭わせてひどい！と文句や不満が爆発しそうな中、その激しい試練を通してパウロは気づいた！それは、四方八方から苦しめられたが、必ず逃れの道があり、途方に暮れたが行き詰まらず、ひどい目に遭うたびに助けがあり、何度も何度も倒されたが、その都度立ち上がることができたことに！何も問題もなく、悩みも苦しみも試練もなければ、確かに感謝かも知れない！しかしパウロは確信した『あの地獄のような現実、修羅場の中にも主の臨在、助け、希望があるのなら、もう恐いものなし』と！『どんな境遇にあっても満ち足りることを学んだ(マンサ-:体得した/確認した:ピリヒ 4:11)』と！

◆私たちは『土の器に宝をもっている(4:7)』。神の確実な助けと恵みがあっても、相変わらず自分は、厳しい現実の中で弱く、無力！しかし器の中身が変わった！今まで土の器(私の心、生活)の中は、腐って異臭を放つ泥水のようなものが一杯だったが、今は、宝(イエス様！聖霊様！)が注がれ満ちている！『その計り知れない力(4:7)』とは、あらゆる不潔な罪を赦し、罪人を聖め！あらゆるマイナスをプラスに！あらゆる逆境・困難・苦しみを乗り越えさせる、劇的な逆転勝利の力のこと！その神からの力を受けて、不満がある現状、日々悩まされる問題やあらゆる人間関係を、そのまま受け入れ感謝し、神を賛美するとき、全ての状況は逆転される！主だけが全てを御存知であり、主だけが、あらゆるマイナスをプラスにお変えできるお方！今年1年、この方の御前に、全てのことをあるがまま認めて受け入れ、感謝し、主の逆転勝利を見せられて、大いなる恵みが多くの人に及び姿を実感したい！